

モモせん孔細菌病菌を冬期に枝から検出する方法

福島県農業総合センター果樹研究所 病害虫科

1 部門名

果樹－モモ－病害虫防除

2 担当者

七海隆之・柳沼久美子

3 要旨

モモの枝の組織内で越冬するモモせん孔細菌病菌 (*Xanthomonas arboricola* pv. *pruni*) は、モモの枝組織を切り取ってTPN水和剤を添加した Modified Tween 培地に置くことで早期に検出できる。

- (1) 11 月に採取したモモの枝を表面殺菌して落葉痕の維管束を切り取り、TPN水和剤を添加した Modified Tween 培地に置いて 25℃で7日間培養することで、モモせん孔細菌病菌を検出することができる(図1)。
- (2) 培地上に糸状菌や他の細菌が増殖することがあるが、肉眼で病原菌を判別できる(図1)。

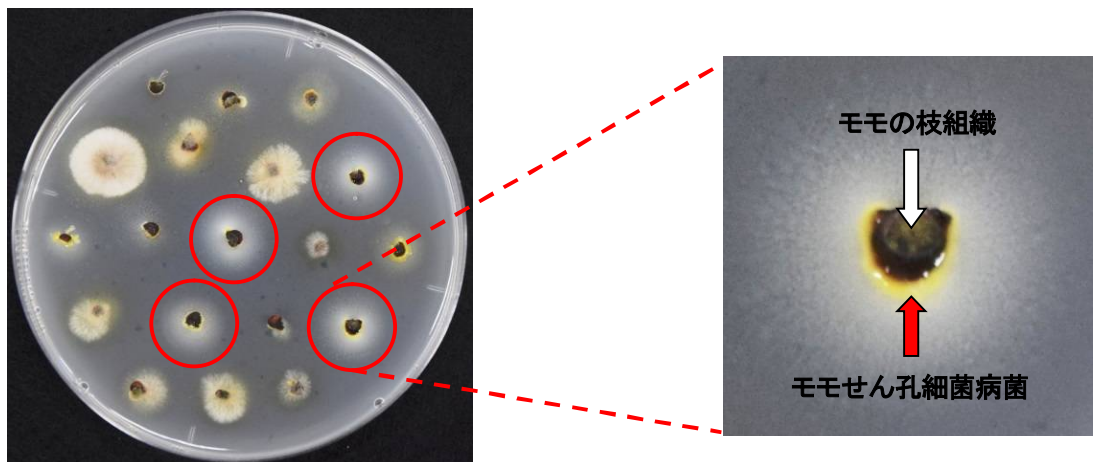


図1 TPN水和剤添加MT培地におけるモモせん孔細菌病菌の検出
(赤枠内は病原細菌が出現したモモの枝組織)

赤枠内の拡大図
(黄色の部分がモモせん孔細菌病菌)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 27 年度
- (2) 研究課題名 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 (モモせん孔細菌病の多発生産地における効果的な防除技術の開発)
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

Modified Tween 培地による *Xanthomonas arboricola* pv. *pruni* の検出(日本植物病理学会報:第 80 巻)